

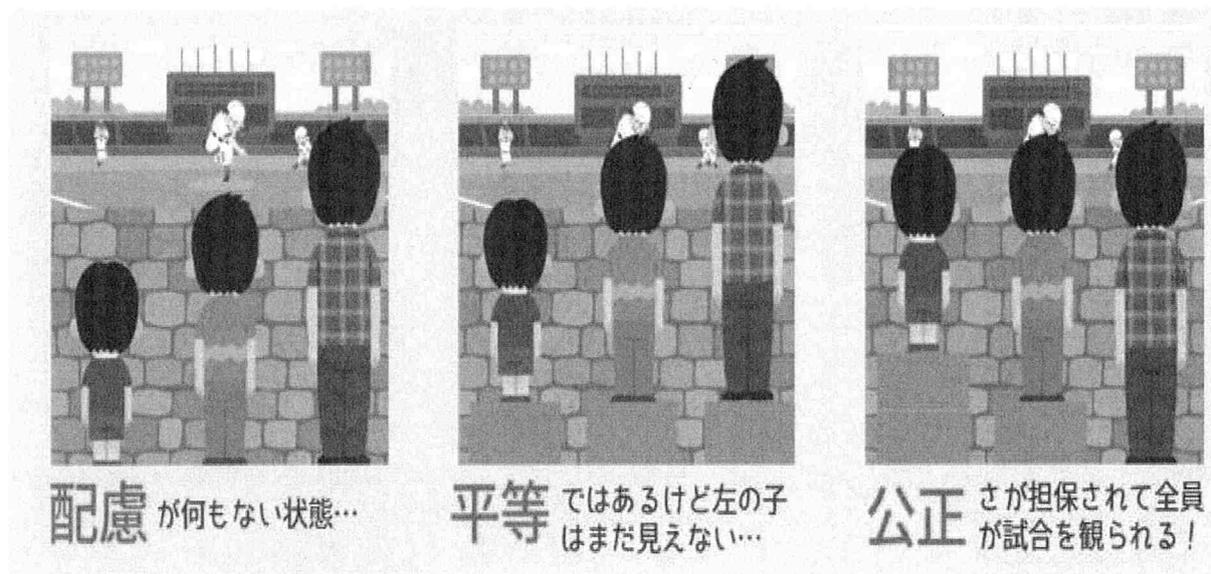
園長のつぶやき⑩

「平等と公平の違い」

「先生は、えこひいきをします。」と子どもたちの前で宣言したことを、前号で紹介しました。今回は「平等な対応が公平な対応と言えるのか」を解説します。

下の図をご覧ください。

野球観戦をしている場面ですが、左図は、ブロック塀があるので、背の高い右の子だけ見えている状態です。真ん中の図は、踏み台の高さを同じにして、平等に対応しても左の子はまだ見えません。そこで、右の図のように、踏み台の高さを変えて背の高さに合わせてあげると全員が見ることが出来ます。



以前の学校で、巡回相談員として、ある中学校の授業を見せてもらったとき、「この子にだけ特別なことはできません。平等に扱いたい」と言われたことがあります。

この図のように「平等な対応」はかえって不公平であり、それぞれの子どもの違った対応をすることこそが「公平な対応」であること、公平な対応とは、それぞれ違って子どもをしっかり把握し、その子ども一人一人に一番合った対応をしていくことが真の「公平な対応」であることを、その先生にアドバイスさせていただきました。

いきなり教師とクラスという「一対他」の関係はできないので、教師と子どもの個別的な「一対一」の信頼関係を築くことが、クラスづくりの根底に必要です。

前号でも書いたように、「平等な対応」はかえって不公平であり、それぞれの子どもの違った対応をすることこそが「公平な対応」であるということを、しっかり教える側が意識することが大切だと思います。